

～ Serving the Community and Supporting the YMCA since 1976 ～



埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ : *Energizing Our Global Movement*

2026
1月



2025-26 年度クラブテーマ「市民と繋がろう・市民に知らせよう」

埼玉 Y・Y's 懇談会
@ 所沢 YMCA

この一年、当クラブはジェンダー学習を続け、女性のレジリエンスを讃えつつ、設立 50 年を祝いたい。また今年は午（うま）年。多くの女性が様々な現場で主張し、行動し、つながる場面を期待する。このブリテンでは Y・Y's 懇を振り返り、また上松メンの素晴らしい元旦のエッセイを掲載します。



[写真メモ] 上の写真。仕事や行事でしか接しえない YMCA職員とワイズがもっと親しくなれば、と今月17日所沢YMCAにて埼玉Yの職員と県内の3クラブの有志と評議員が集って初の「Y・Y's懇談会」を実施した。短時間だったが、顔と名前と声とが一致した。つながらなければYじゃない！またやりたい。右の写真。クラブが応援している「き咲きてらす」も5年目。庭の白梅を背に1月「哲楽カフェ」の参加者の笑顔が映える。6人はクラブ活動で顔なじみ。

今月の聖句

イエスは彼に言われた。「私が道であり、真理であり、命なのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」
ヨハネの福音書 14 章 6 節

2月「バレたんでえ」例会

日時：2月16日（月・祝）10:00～12:00
会場：市民活動サポートセンター（パルコ9階）
卓話：「児童養護施設のジェンダーへの取り組み」
児童養護施設「さんあい」理事長 高瀬一使徒氏

2月 夜談会

日時：2月9日（月）午後6時～8時
会場：サイゼリア（浦和駅東口）
会費：各自の飲食した分のみ。
* 気楽に知り合い、和やかに見識を広げるさばけた市民の集いの場。好奇心出して覗いてください。歓迎します。

◆ 「初孫の誕生」

上松寛茂 メン



多くの人は高齢になるほど月日が経つのがいっそう短く感じるようになるらしい。あつという間に1年が過ぎていく。「光陰矢の如し」「少年老い易く学成り難し」「馬齢を重ねる」という言い古された諺もある。そんな比喩に惑わされながら年末年始のころは来し方行く末を考える羽目に陥る。何人かの知人、友人、仲間たちの鬼籍入りを知るのもこの季節。80歳を迎えた。八十路の坂をいかに上るか。否、下り坂という見方もある。「あと何年生きられるのだろうか」考えることはそればかり。それが分かれば心構えも違ってくる。

10年前に旅立った連れ合いの時もそうだった。旧約聖書コヘレトの言葉3章に「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。生まれる時、死ぬ時……」。伴侶との別れの時に、この言葉に納得できるわけがない。人は全員がいつか、この世から消える。続いてコヘレトの言葉は「神のなさる業を始めから終わりまで見極めることは許されていない」と記している。

「80歳。これまで体験・経験できなかった風景や出来事、消化しきれていなかった知識などを再度獲得できる、またとないチャンス。その実現化を目指す」と今年の年賀状に認めた。Y'sメンバーは高齢者が圧倒的多数。その仲間たちとの交流は無上の喜びとなる。



* 筆者と初孫娘が対面した時の大切な写真。メンバー同心から上松メンの喜びをシェアしたい。

元旦の未明、長女に長女が誕生。初孫だ。生きてよかった。バトンタッチができた。

生かされている喜びを神に感謝しながらワイズの皆さん、今年もよろしく。◆

浅羽俊一郎メン



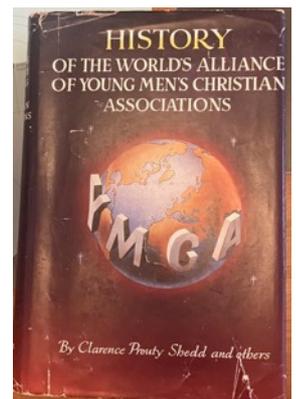
私がYMCA（以下“Y”）と出会ったのはニューヨーク市、小学3年から4年に変わる1959年のサマースクールだった。前の秋、小学校に転校し、言葉も少し分かりだし、通うのが楽しかった。帰国後中1で東京Y野尻学荘（中高生男子2週間キャンプ）でははじめも多少あったが、キャンプソングを一杯覚えた。その後東京Y職員を9年で辞職し、25年のギャップを経て2009年から会員としてY（埼玉、東京、その後ぐんま）とつながり、一時Y同盟にも関わって、今に至る。

振り返るにまさに日本Yの標語「見つかる・繋がる・よくなっていく」を生きてきたと言える。特に職員時代、先輩や会員に教えられ、リーダーたちと磨きあい、その中で勇氣、好奇心、ユーモア、感謝などを培った。他方実務面ではあまり恩恵を受けておらず、水泳・スキーは結局ものにならなかった。

ところで「Yは運動か事業か」は昔から議論されてきたテーマだが、私なりに言い換えれば「Yは会員か職員か」となる。今までの歴史を見れば「どちらか」でなく「両方」であろう。それは事業/職員が人々をYに惹きつける一方で、運動/会員はYを外へ広報する関係だ。ワイズ、会員やリーダーはYの価値を身体で覚え、社会に出てその物語をそれぞれの場でYを証しできる。そのためにも会員（職員を含む）同士がYで徐々に信頼関係に深め、ひいては感動・感謝をバネに、外に発信する“会員力”を身につけるようなロードマップを描きたい。

今月職員・ワイズ・評議員有志が所沢Yで同じ会員の立場で交わった。（1頁写真）私には初めての体験だったが和やかに話し合えて、とても嬉しかった。Yが他の世俗組織にない“会員力”を活かして地域に貢献し、若い市民を育てる団体になってもらいたい。次の懇談会が楽しみだ。◆

Yの歴史を繙くと、革新的活動や事件以上に会員や職員の運動への貢献や苦労話が多い。「世界Y同盟史」に記された第一次大戦後の独仏の2Yの信頼醸成に会員が尽力したことや、日中関係悪化のさ中、日本青年が職員に懇願して中国に渡り交流を果たしたなど、会員の潜在力や人間関係がもっとYの役に立てたら、と願う。



◆ デザイン思考で持続可能な地球を提案

アジア太平洋 YMCA 連合 (APAY) は 2025 年 10 月 13 日～18 日、フィリピンのマカティ YMCA で若者対象に意識改革研修プログラム「若者が未来を創造する：持続可能な地球のためのデザイン思考」を開催。この地域の YMCA (インド、日本、ラオス、モンゴル、ミャンマー、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、ベトナム) から 18 名の若手リーダーが集まった。

この研修では批判力、意思伝達、環境管理、AI リテラシーなどを身につけて、未来のチェンジメーカーの育成を目指した。具体的には気候変動対策のための変革を促せるリーダーになる思考枠と技能の訓練を提供した。ユースは共に学び、笑い、感化し合い、文化交流に満ちた 1 週間を過ごし、この不確実な時代にあって、環境への配慮、他者への共感、そして人々や地域社会とのつながりを築くための強靱な心を養った。参加者は若者主導の気候変動対策に関する独自の解決案を企画するにあたりデザイン思考とアジェンダ設定、コンテキストマッピングとその展開、ストーリーボード作成、提案作成など具体的な作業も学んだ。



施設訪問ではまずロータリークラブ AI アカデミーを訪れ、AI の倫理的・責任ある活用について、また、ツールとしての可能性について学んだ。ついでドン・ボスコ神学校の環境センターでは集水施設、バイオ炭の製造、堆肥化システム、プラスチックリサイクルなど、実践的な取り組みを見学した。

最終日には、気候変動対策の解決案を発表した。グループ毎にコンセプトを共有し、励まし合った。最後の晩、参加者はそれぞれ色鮮やかな伝統衣装を身にまとい、歌い、踊り、友情を感謝して楽しく「送別と団結の夜」晩餐会で幕を閉じた。

* APAY の英文記事をグーグル翻訳し、短縮意訳しあものです。(浅羽)

* YMCA の現場を知らないメンのために職員が寄稿してくれました。ありがとうございます。

1 月 10 日～11 日に一泊で南魚沼市においてスキー&雪遊びキャンプを実施しました。キャンプではスキーや雪遊びといった自然体験に加え、仲間やリーダーと共に過ごすグループタイムやタレントショーを楽しみにしている子どもたちも多くいます。



グループタイムでは、ボードゲームやお絵描き、枕投げなど、何を行うかを仲間同士で話し合っていて決めています。時には意見がうまくまとまらない場面もありますが、子どもたちのことをよく理解したリーダーが寄り添いながら関わることで、安心して自分の気持ちを表現できる時間となっています。

また夜のタレントショーでは、希望者がそれぞれ得意なことや好きなことを発表しました。どの発表にも自然と温かい拍手が送られ、互いを認め合う和やかなひとときとなりました。この 2 日間のキャンプは、CCP 助成金による支援をはじめ、多くの方々のご協力のもと実施することができました。支援者の皆様、ありがとうございました。

(川越センター職員 河合今日子)

活動・会議メモ

◆ 1 月「夜談会」

今年最初の夜談会。いつものメンバーが集まって色々話し合いました。浅羽会長からの話題提供、今回はたまたまインターネットで見つけたさいたま市の新しいアンケート調査の結果(昨年 6 月実施、発表が 12 月)。市の住民の地域活動の参加状況を調

べたもの。20の活動に複数回答だが、1位は自治会活動の33%で、2位PTAはその5分の1。下位の環境、スポーツ、防災、国際などは1%を切る。他方最多回答数は「何もしていない」で48%と2年連続で増加。当会合で少し意見交換したが、盛り上がりず。ただワイズとしては。なぜこのような結果が出たのか知りたい。

なお朗報あり。上松メンが元旦に初の孫娘が生まれ、祖父となられた。(浅羽 記)



出席：浅羽 m、上松、浅香、大輪、澁谷、衣笠、高岡 浅羽

◆ 1月「過成人」例会

今月の例会は19日に市民活動サポセンで10時開会。早速話し合いを開始。1) 17日に所沢YMCAで開かれたY職員と3ワイズによる有志懇談会。ぶっつけ本番でやった。改めてメンがYMCAを語るほど知らないということ。道のりは長いが進む方向は正しいと思う。2) 50周年事業について浅羽から市民活動団体を招いてシンポジウムと交流の場を企画したいとの提案。フリーマーケットやオークションを同時にしてはどうか、との意見もあり。次回までに浅羽から企画案を提出する。3) さいたま市国際NGOネットワークに当クラブを登録を会長から提案があり、承認された。4) 2月例会は児童養護施設「さんあい」の高瀬一使徒理事長の施設におけるジェンダーへの取り組みについての卓話で決定。5) 会計報告：口座481,858円と現金14,735円当日の献金5,200円を加算して口座487,058円。



なお3月例会は所沢クラブの小林会長の青春の世界一周船旅の思い出話を計画している。

今回ビジターの澁谷メン、ゲストの金子氏が積極的に発言してくださったことに感謝したい。

出席：高岡、金子、上松、伊藤、澁谷、櫻井、浅羽

* 毎回写真を撮ってくださるサポセンのスタッフに今年もよろしくお願ひしたい。(浅羽 記)



仲間からの便り



◆ 今月の俳句 堀和光二郎メン (俳号 愚道)

初場所や芸者さんの艶やかさ

初場所は若青錦が優勝しましたが、私はいつも観客席を見えています。有名人がよく見つかりますね。初場所は日本髪の方がいましたよ。



大根の葉っぱを刻む七草粥

春の七草分かりますか。スズシロナは大根の別称ですね。

句作りのあと一句が出ない年初め

これはそのまま。毎月句作りに悩んでいます、年初めは尚更です。

◆ 衣笠輝夫メン

しばらく前から新都心駅そばのけやき広場で「さいたま新都心バリアフリーのまちづくりボランティア」の歌声集会に関わり、企画と総合司会を担当しています。月1回130名ほど来て元気に歌っている。市のほうで日本の唱歌を次世代につなぐことと、高齢者に居場所を提供することを狙っている。実は川越クラブの山崎メンが伴奏を担当している。とにかく楽しいよ!

* 電話の3分話をまとめました。(編集子)

| 統計 | 出席 | 会員 | ゲスト/ビジター |
|---------------|----|----|----------|
| 1月夜談会 (01/12) | 8 | 4 | 4 |
| 1月 例会 (01/19) | 7 | 5 | 2 |

ワイズメンズクラブ 案内



ワイズメンズクラブ国際協会 (Y's Men International) は青少年教育団体YMCAを支援する国際的奉仕クラブで、若者と地域への奉仕と、国内外の交流を大切にします。肩書き/性別/政治/宗教/年齢差を問わず皆対等です。奉仕活動に挑戦してみたい方に向いています。埼玉クラブは浦和区を拠点に活動しています。先ず月例会の雰囲気味わってください。年会費4万円ですが、ゲストでも一緒に活動できます。

* 詳細は浅羽会長まで。(090-7426-5553)